

0歳ごろ

愛着関係を結ぶ

こどものこころの健やかな育ちのためには適切な「愛着」形成が重要です。これは、将来にわたる人への信頼感の出発点となります。大人が応えてくれる、共感してくれることで人との愛着関係が深まります。

大切にしたい関わりは…

- こどもの体の動きや表情などから気持ちを汲み取り、視線を合わせて表情豊かに言葉にして返しましょう。

安心感

びっくりしたね

だいじょうぶだよ～

うれしいね～

おしゃべり
たのしいね～

あ～あ～

自己決定力

1歳ごろ

信頼感

2歳ごろ

自分でやりたい！

自分でできることも増え、意欲的に自分のことを自分でしようとする姿が見られる時期です。「いや」「自分で」と意欲や思いを言葉や態度で表現します。自分でしたいけれどできない時などには、感情のコントロールがうまくできないため、一度起きた感情を収めることが難しく、泣いたり怒ったりします。

大切にしたい関わりは…

- できなくても、うまくいなくても見守り、「がんばったね」「ここまでできたね」と認める言葉をかけましょう。
- 「お手伝いしようか？」とこどもの意思を確認してから、大人が手伝い、最後はこども自身が「自分でできた」という満足感を感じられるように関わしましょう。
- 自分でやってみたいけれどできない、できるけれどやってほしい時などには、思いを受け止め、手伝ったり、一緒にしたりしましょう。

自分の思いを十分に出すこと、思いを受け止めてもらう経験が人の思いに気づき、思いやりのこころを育てていきます。

見たい！触りたい！聞きたい！

「あれ？」「何だろう」「不思議だな」と感じながら、物や身近な環境に関わっていく時期です。見たり触れたり繰り返し試したりするなかで、気付いたり、発見したりしています。

大切にしたい関わりは…

- こどもの興味を見守りながら、タイミングを見て「ふしぎだね」「〇〇みつけたね」などと共感の言葉をかけましょう。

やりたい事を存分にやれる環境と、共感してくれる大人がそばにすることで、意欲的に遊び込むことがつながります。

なんだろう？

主体性や自己を肯定するこころを育むために大切にしたいこと

好きな遊びを楽しもう！

好きな遊びを自分で選び、決めることも主体性を育むうえで大切です。自分で選んだ遊びを満足いくまで楽しむことで、**満足感**や**達成感**を感じます。

体験しよう！

地域や園の取組に参加したり、舞鶴の海、山、川等の自然に触れる体験をしたりすることは、**こどもの体験が豊か**になり、これからの生活や学びにいかされます。

お手伝いしよう！

人の役に立ったという経験が得られるお手伝いはこどものこころの成長を促します。「ありがとう」「たすかったよ」「とてもうれしいよ」などと感謝されることで、**意欲**や**自信**、**自己肯定感**が育まれます。

自己有用感

コミュニケーションカ

～6歳ごろ

相手の思いを聞く、話し合う、折り合いをつける

自分の思いを伝える、相手の思いを聞くなど、話し合いの経験が大切です。時には、互いの意見がぶつかり合い、がまんしたりゆずったりと、自分の気持ちに折り合いをつけることも必要になります。ルールや約束を守ろうという気持ちも芽生えてきます。

大切にしたい関わりは…

園では

- 自分の思いや考えを話したり、相手の思いを聞いたりするなど、話し合いの機会をもちます。
- お互いが認め合えるよう、一人一人のよさ、得意なこと、発見したことや行動したことを周りに発信することで、一人一人が輝く場面をつくります。
- 遊びの中でルールや約束を守ることは気持ちがよい、友だちとの遊びもより楽しくなるという経験や、どうしたら守れるかを、みんなで話し合う機会をもちます。

家庭では

- 「おはよう」等のあいさつ、「ありがとう」の感謝の気持ち、「ごめんね」の謝罪の気持ちは大人がモデルとなって、こどもに示すことが大切です。大人自身がルールや約束、マナーを守りましょう。

もっと高くするぞ～

友だちといっしょが楽しい いっしょに遊びたい

自分以外の人への関心が芽生え、友だちと一緒に何かしたい、一緒だから楽しいなど、人という喜びを感じ始める時期です。まだまだ個人差も大きく、自分中心な時期でもあり、自分の思いを通そうと、気持ちがぶつかり合うこともあります。このような経験をしながら社会性が育っていきます。

大切にしたい関わりは…

- ぶつかり合った時もまずは見守りましょう。
※ケガにつながるような場合はすぐに介入する必要があります
- ↓
- お互いの気持ちに共感し、気持ちを伝えましょう。
「〇〇ちゃんもほしかったね」「△△したかったんだね」
- ↓
- 解決する方法を一緒に考えたり、提案したりしましょう。
「二人ともほしいよね」「〇〇したかったね」「どうする？」「△△してみる？」

けんかやトラブルを経験する中で、友だちにも思いがあることを知っていきます。相手の思いにも気づき、自分の気持ちにも折り合いをつけられるようになっていくことで自分たちでトラブルを解決していく力をつけていきます。

自己表現力

どろだんご
ピカピカになったよ～

へえ～
どうやって
つくったの？

自己有能感

発見したい！知りたい！伝えたい！

興味や関心をもった遊びを繰り返し楽しむ中で、新たな発見をしたり、気付いたりしています。そして、さらに試してみようとしします。
※この姿は、「自立心」や「思考力」にもつながっていく育ちです。その発見や気付いたことを誰かに伝えようとしします。

大切にしたい関わりは…

- 大人が「それは〇〇だからだよ」と言ってしまうのではなく、こどもの発見や気づきを共感や驚きをもって受け止めたり、問いかけたりしましょう。
「すごい発見だね」「よく気付いたねー」「なんでだろうねー」「どうしたらそうなったの？」

自己肯定感

考える、試す、工夫する

気付いたり、発見したりしたこと、好奇心をふくらませて調べたり、考えたり、試行錯誤したりして様々な遊びが生まれます。特に、土、砂、水、草花などの自然に触れることは、こどもの体験を豊かにします。試行錯誤する遊びは、根気強く取り組み、工夫し、見通しをもつ、集中し持続して取り組む力を育みます。

大切にしたい関わりは…

- 遊びと一緒に楽しみましょう。
- こどもの言葉に耳を傾け、思いを受け止めましょう。
- 関心をもって問いかけましょう。
- こどもの興味・関心に応じて自然に触れる体験をしましょう。

自己調整力

発達には個人差があります。ゆったりと見守ってあげましょう。特に、食事や排泄の自立などは、それぞれのお子さんのペースに合わせてすすめていくことが大切です！